

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

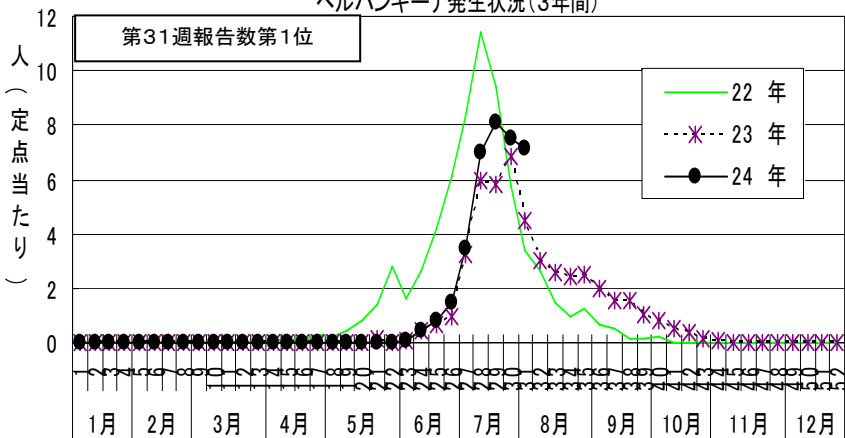
平成24年7月30日（月）～8月5日（日）〔平成24年第31週〕の感染症発生状況

第31週で患者報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)手足口病でした。

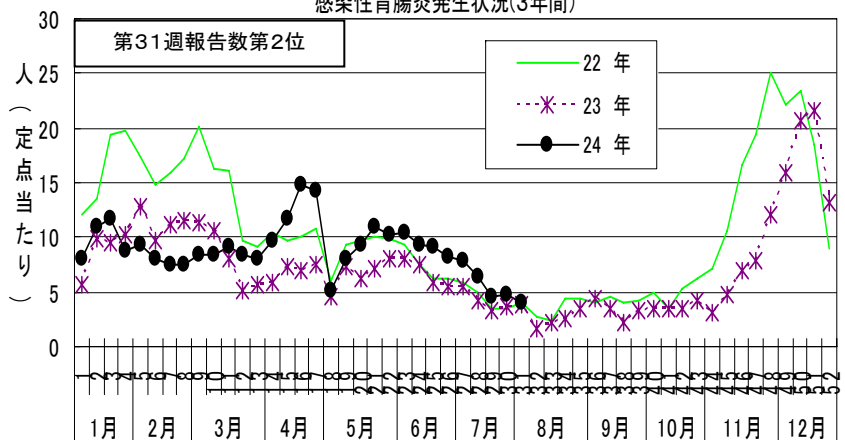
ヘルパンギーナは定点当たり7.16人と前週（7.55）より患者報告数は減少しましたが、流行発生警報基準値（定点当たり6.0人）を超えているため、引き続き注意が必要です。感染性胃腸炎は定点当たり3.97人と前週（4.82）より患者報告数は減少しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

風しんの届出が3件、腸管出血性大腸菌感染症の届出が1件（推定感染地域：日本）ありました。特に風しんは、全国的にも患者届出数が非常に多い状況が続いています。

ヘルパンギーナ発生状況(3年間)

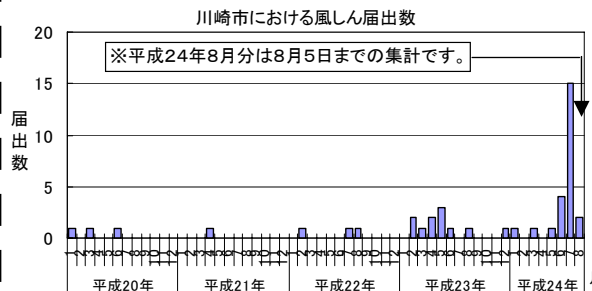


感染性胃腸炎発生状況(3年間)



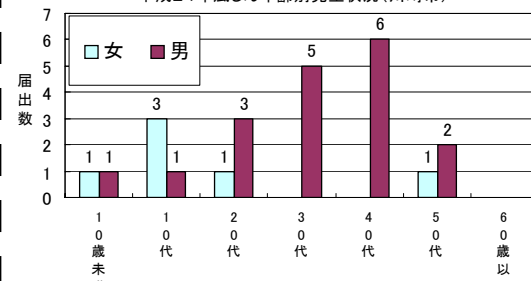
## 風しん流行中～成人男性の割合が最多！！～

今年の6月以降、全国的に風しんの届出数が非常に多くなっており、川崎市においても届出数が増加しています。風しんは「先天性風しん症候群」を引き起こすことがあるため、妊娠の可能性のある方は特に注意してください。



風しんの潜伏期間は約2～3週間で、発疹、発熱、リンパ節の腫れなどの症状が認められます。風しんに対する特異的治療法はありませんので、**予防接種を受けることが最も重要です。**

平成24年風しん年齢別発生状況(川崎市)



**特に30代・40代男性の届出数が多くなっています！！**

### 先天性風しん症候群(CRS)とは・・・



風しんウイルスに免疫のない妊婦が妊娠初期に風しんにかかり、ウイルスが胎児に感染することで、出生児に多様な障害(難聴、心疾患、白内障など)を生じることを先天性風しん症候群といいます。

**そのため、妊娠可能年齢までに予防接種を必ず受けましょう。**